様式１

【瀬谷区】令和８年第３回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和８年９月２日　14 時 56 分　～　17 時 08 分
場　　所	瀬谷区役所　５階大会議室
出 席 者	【座長】久保和弘議員 【議員：２名】花上喜代志議員、川口広議員 【瀬谷区：３５名】山岸秀之区長、富永裕之副区長、 木村洋福祉保健センター長、 野田晴子福祉保健センター担当部長、 坂口堅章瀬谷土木事務所長、 日比野徹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員
議　　題	１　令和７年度 個性ある区づくり推進費 決算状況 ２　令和８年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況 ３　令和９年度 個性ある区づくり推進費 予算編成にあたって
発 言 の 要　　旨	＜議題１・２＞ 【花上議員】まず 16 ページの地域福祉保健計画推進事業の生活困窮者自立支援推進事業にあるひきこもりについてだが、今ひきこもりが全国的に非常に問題になってると思う。瀬谷区における今のひきこもりの実態というのはどのような状況になっているのか教えてもらいたい。 【越川生活支援課長】ひきこもりは、その特性から実数の把握は非常に難しく、推計になりますが、瀬谷区では約 1,000 人のひきこもりがいると推計されています。これは令和４年度に行われた横浜市の子ども・若者実態調査及び市民生活実態調査により計算されたひきこもりの出現率を人口に掛け合わせて推計したものです。日常的に生活支援課でも相談を受けていますが、1,000 人という数に対して相談数が少ないことから、相談に結びつける努力が必要であると課題認識しています。 【花上議員】ひきこもりは大変な社会問題であると思う。年々ひきこもりが増えているのではないかと思うが、その傾向についてはどのように把握しているか。

	【越川生活支援課長】実数としての実態はなかなか掴めていませんが、先ほど申し上げた調査が大体５年おきに行われていますので、次回９年度に行われる調査で数についてはある程度把握できるかと思います。相談に結びついてるケースは毎年 10 数件から 30 件ということで、特に上下に大きく変動する傾向は見られていません。 【花上議員】ひきこもりのご家庭は想像するだけで深刻な状況ではないかと考える。今 10 件から 30 件ぐらい相談があるということであったが、かなり深刻な話を区役所では把握しているのか、その実態についてどう認識しているか。 【越川生活支援課長】ひきこもりの世帯は、その保護者も含めて相談に来るというのは非常に難しい状況ということは認識しています。したがって、地域の方や高齢者の世帯に訪問している介護事業者などがネットワークを作って気づき、見守ることが必要かと思います。今年度はそのネットワークの形成に向けて、関係機関で繰り返し連絡しながら、気付いたら見守る、あるいは生活支援課に連絡をいただくようなネットワークを作ることに注力していきたいと考えています。 【花上議員】今の話のように、地域でしっかり見守っていくということも非常に大切ではないかと思う。ひきこもりに起因する痛ましい事件や事故が起きないように気を配っていく必要があろうかと思うが、そのためには役所だけでなく、地域を巻き込んで全体的に見守りをしていくということが非常に大切である。その点についての地域の皆さん方の認識と協力については今どのような状況になってるか、教えてもらいたい。 【越川生活支援課長】なかなか地域の皆さんの状況というのは把握しづらいのですが、ここ ３年ほどひきこもりに関する講演会などを通じて、見守る必要性を感じている方が増えているのかなということは実感しています。地域ケアプラザの職員との連絡会の中でも孤立している方が増えている、そうした方が沢山いるということは話題に上がっているので、まずはそうした関係者を中心にネットワークを作っていきたいと思っています。 【花上議員】こういう課題については、自治会町内会でもしっかり対応していくということが必要ではないかと思うが、自治会町内会の中でひきこもり、生活困窮者、こういった問題についての具体的な話は出ているか。今実態がどうなってるのか教えて欲しい。 【越川生活支援課長】自治会町内会の方に関しては、どこまで意識を持たれ

	ているのか具体的に聞いたことはありませんが、区で行っている地域支援の中で、そういった発言を聞く機会はあります。ただ、今そうしたネットワーク作りに取り組んでいるということについて、連絡会等で具体的な説明をしたことはありません。現在の取り組みについて、積極的にＰＲしていきたいと思います。 【花上議員】是非区役所が中心となって、瀬谷区において地域ぐるみで積極的にひきこもり対策を進めていただくよう要望したい。 　次に 17 ページの地域包括ケア推進事業にある認知症であるが、認知症の地域支援も大変大事な仕事だろうと思う。今、瀬谷区内における認知症の状況をどのように掴んでいるか教えてもらいたい。 【佐藤高齢・障害支援課長】高齢者数そのものがかなり増えてきていますので、それに影響されて認知症の方の数も増えてきているかと思います。認知症の中でも特に課題になっているのが早期発見、早期対応できちんと医療につなげることですので、この点に重点的に力を入れなければいけないと感じています。 【花上議員】認知症については増加傾向になっていて、地域を回っていても具体的な話がいろいろと聞かれるようになり、かなり深刻な話になってきてるなと思う。今、高齢者が大変な中でこの認知症についてかなり語られるようになってきたということであるが、家庭の中で認知症にどのように向かい合っていくかが、まず大切だと思う。医師会なども含めてこの認知症についての理解、対応、取組について今の時点で分かることがあったら教えてもらいたい。 【佐藤高齢・障害支援課長】医師会の在宅医療相談室と一緒に公会堂において映画鑑賞会を開催するなど、認知症に関する啓発活動などは進めています。以前、クリニックの先生を講演会の講師としてお呼びして、ボランティア活動や趣味活動、人との交流などを積極的に進めてる方はなかなか認知症を発症しづらいということや、地域との関係性の中で認知症を考えていかなければいけないのではないかというお話を伺って、それがかなり皆さんの心に響いたところがあったのではないかと思います。様々な手段で啓発活動を進めながら対策を講じていきたいと思っています。 【花上議員】話があったように、認知症が発症する原因というのは医学的にいろいろ分析がなされていると思うが、外出しなくなったり、人との触れ合いがなくなることが認知症を発症させる大きな原因になっているのではない

	かと言われている中、我々が地域の実態を見ているとそのとおりだと思うので、できるだけ外に出る機会、いろいろな方々と話し合う機会をできるだけ作っていくことが大切であろうと思う。 　例えば会社を定年で辞めた人が定年後に地域との交流がほとんどなくてひきこもってしまう、それが原因で認知症になるといった事例を数多く聞いているので、瀬谷区役所が中心になって自治会町内会など様々な団体と連携を取りながら、孤独にならない取組を進めることが大切ではないかと思うが、どう考えるか。 【佐藤高齢・障害支援課長】認知症の中でやはり人とのつながりというのは大変大切なものだと認識しています。おっしゃるように会社を辞めた後のそのような話も聞きます。また、死別等で１人になった後に寂しくなってしまうという場合もありますので、そういった方を地域の活動やサロン、居場所のようなものの中にどうやって取り込んでいくかということを、地域包括ケアの取組の中でもしっかり考えていきたいと思っています。 【花上議員】ご夫婦の世帯で死別して奥さんが１人暮らしになってしまったことから、次第に認知症が進んでいく事例なども多いとも聞くので、そういった方々の孤立をできるだけ防いでいく取組というのが大事だろうと思う。高齢になると、例えば今まで一緒に同窓会に出たり、ゴルフに行ったり、いろいろ外出する機会があったものが次第になくなってきて、いつの間にか孤独になって認知症が進む、そういうような傾向が本当に周りにも見受けられるようになってきている。役所としてできるだけ実態を踏まえて、こうしたことを防ぐための対策を考えていく必要があると、最近特に思うがこういった点について考えがあれば聞かせてもらいたい。 【佐藤高齢・障害支援課長】地域ケア会議という取組があり、地域の自治会町内会やシニアクラブ、民生委員児童委員協議会、区社会福祉協議会等の方にお集まりいただいて、医師も交えて地域の課題を話し合い、解決に向けた取組を進めています。その中で特に認知症の受け入れがどれぐらいできるのかといったことも課題として捉えていますので、話し合いを通じて何らかの形に結び付けたいと思っています。 【花上議員】地域にはいろいろな組織があるが、その組織自体が年々縮小して、活動が段々となくなってきているということを瀬谷区内の様々な地域の方から話を聞いていて、これは本当に深刻な状況になっているのだと思う。最近聞いた具体的な話では、瀬谷区内に麻雀のクラブがあって多くの方が参

	加していたのが、麻雀をやる人が段々といなくなって、今はもうほんの４、５人しか来なくなったということであった。そうした地域力が弱ってきている実態が次第に見えてきている中で、こういった課題を解決していくために新しい取組み方を考えていかなければならないと思うがどうか。今麻雀の話をしたが、それ以外にも地域にはいろいろな組織があって、老人クラブやシニアクラブの実態を聞いても、高齢者が増えている割にはシニアクラブの人数自体は全然増えていないこともあって、段々と孤独化していく傾向が強まっているようにも感じる。区長もこういった実態を様々認識していると思うが、どのように考えているか。 【山岸区長】私も地域に行くとそういったお話を聞きます。シニアクラブからもそのような話も当然聞いています。人口が減り、なお且つ高齢化していくことを考えると、認知症や孤独死が地域のつながりに大きく関わってくると思っています。子供たちから高齢者、幅広い世代が地域で交流することが進んでいくと、それが安心安全な強いまちづくりにもつながっていくと思います。その点は私も危機感を持っているので、地域力を高める手立てということについてはしっかりやっていく必要があるという認識でいます。 【花上議員】話は変わるが、かつては例えば町内のどなたかが亡くなった時は、町内全体でお通夜や告別式をみんなで協力して仕切って、盛大にやっていた。今は町内の亡くなった方が全く分からないまま２年、３年とかなり経ってから「あの人実は亡くなっていた」というような、今まででは考えられないような実態になっていることについて、本当にこれでいいのかなと思うことも多い。地域全体で地域の方々を見守っていく、お互いに協力し合っていく、そういう点が非常に希薄になってきたように思うが、こういった現象に対して、瀬谷だけではないが、横浜市として何か具体的な方針などは出されているのか。 【政木地域振興課長】おっしゃるように、自治会町内会の加入率が毎年下がっていて、それとともに地域の担い手不足で見守り合いができないといった課題があると思っています。自治会町内会の加入率を上げるためには、特に若い世代に入っていただく必要があると思いますが、そういった方が気兼ねなく自治会町内会活動に参加できるようにするために、例えばＤＸ化を進めると入りやすいという話も聞きますので、そういった支援や若い方が参加しやすくするためのヒント集を区でも作成して、各自治会町内会にお配りしています。

	【花上議員】これは本当に今日大変大きな課題だと思うので、是非、地域力が減退しないよう、いろいろ知恵を絞って地域の活動を活発にし区民全体で見守り活動をして、できるだけ孤独にならないような取組み方について自治会町内会を始め、様々な組織の方々と知恵を出し合って、瀬谷区は特にこういう点にしっかり取り組んでいるというような模範的な区行政をこれから進めてもらいたいということを要望しておきたい。 それから、グリーンエクスポの機運醸成についてであるが、開幕までいよいよ 200 日を切って、本当のカウントダウンに入ってきたと思う。チケットの販売や駐車場の問題、あるいは様々な企業がパビリオンを作り、いろいろな協力をしていただくといったような具体的な動きが出てきて、毎日のように我々のところにもお知らせが届いているが、それを見る度に本当にグリーンエクスポに向けて、順調に事業や機運醸成が進んでいると思う。今の状況を見て、地元の区長としてどのような認識を持ってるいるか、教えてもらいたい。 【山岸区長】今日で 198 日前ということで、200 日を切っているという状況ですが、地元瀬谷の区長としては、「地元においてまだまだＰＲなども足りないんじゃないか」というお声もありますけれども、区としては機運醸成については当たり前のように進んできていると認識しています。昨年度行った区民意識調査でも相当な母数の中で認知度は 95％になってるということもあり、そういった意味での認知度は進んでいますので、これからは来場促進に向けてどんどんＰＲしていくことが必要だと認識しています。 ９月の半年前、また 100 日前の節目を捉えて、市としてもいろいろＰＲも打って更に認知度も高まっていくと思いますし、区ではどうしても区民の皆さん向けの機運醸成が中心というところにはなりますけれども、９月には半年前イベントも行っていきますし、どんどん区民の皆さんにもＰＲして、是非来年３月 19 日に足を運んでいただくような取り組みもしてまいります。区民の皆さんとお話をしていても、区役所に来られた際に「チケットはどうやって買うの？」 と聞かれることもあって、関心もかなり高まってきていると思います。８月 18 日現在で全体としてチケットも 233 万枚売れているということですが、これからまた９月 18 日に日付予約がスタートしますので、またチケットの販売枚数もどんどん増えていくのではないかと思っています。 【花上議員】おっしゃるようにチケットの売れ行きもかなり好調であるという見方のようで、非常にいい傾向だと思っている。瀬谷警察署からは、防犯

	対策で瀬谷警察署の人員を増やすと聞いていて、横浜市だけではなく、全国的にこの国家イベントの成功に向けた取組が着々と進んでいるところだと思う。横浜市が全てやっている訳ではないので、なかなか全体のことがよく分からないとということはあるが、博覧会協会や国の各省庁などのいろいろな取組などが断片的に私にも届いていて、段々加速してきたと受け止めているところである。成功に向けて地元の瀬谷区として更にやらなければならないことはどのようなことかを考えていかなければいけないと思うが、今、瀬谷区内を歩いていると、これは私が勝手に名付けているのだが「瀬谷大改造計画」が進んで、もう至るところでいろいろな工事が行われている。これはこれまでの瀬谷区では考えられなかったことで、国の予算も投入して瀬谷のいろいろなところで工事が行われて、みるみる街が変わっているのを見ると、「瀬谷大改造計画」と私が言ったのは決して間違っていなかったと思う。 　多くの瀬谷区民の皆さんが「花上さん、瀬谷のあっちこっちで工事をやっているね」と言うのだが、そういう区民の方も実態をよく分からないまま、そこでも工事ここでも工事という実態を見てお話になっている。その工事がいろいろ行われている中で、区民の日常生活に様々な支障が出ては困るということで、こういった点について、区役所、土木事務所も含めていろいろな問い合わせや意見が寄せられているのではないかと思うが、この瀬谷区内各地で行われている工事の実態について、今どのような状況になっているのか教えてもらいたい。 【青木瀬谷土木事務所副所長】瀬谷区でもいろいろな工事を行っていますが、まず瀬谷駅の北口駅前広場の再整備に伴う工事に関しましては、自転車駐輪場の移設に関連して、歩道上の放置自転車による通行障害についてご意見をいただいています。このため、道路・交通政策局と連携して区画外駐車の定期的な撤去を実施するなど、歩行空間の確保に努めています。また、瀬谷駅から会場までの主要動線である環状４号線の東側の歩道の整備につきましても、沿道に家屋が非常に密集していますので、近隣の住民の皆様から工事の時期や車両の出入りの影響などについてご心配の声をいただいています。これから工事が本格化しますので、事前周知や交通誘導を適切に行って周辺への影響に配慮しながら進めていきたいと考えています。 【花上議員】土木事務所も大変ご苦労が多いかと思うが、瀬谷区民の皆さんにとって日常生活の中で支障が起きないように、またグリーンエクスポが始まってから大変な問題が起きないようにということで、随分我々に意見が寄

	せられているのでしっかり対応していきたいと思う。特に瀬谷駅と三ツ境駅からシャトルバスが出るということなので聞きたいのだが、どのような形でシャトルバスが発着するのか、また大勢の方が集中してバスを待つということになると思うので、今その対策について万全を期した準備が進められているのか、瀬谷駅と三ツ境駅それぞれについて今の状況を教えてもらいたい。 【正田区政推進課長】まず、瀬谷駅におきましては、既存のバスターミナルを活用してシャトルバスが発着する予定になっています。また、特に会場に一番近い駅ですので歩行者の方も駅から歩いていくと思われるので、来場される方と普段駅を使われる方の誘導は非常に重要になってくると考えています。そちらにつきましては、博覧会協会や局において、委託事業者と調整して丁寧なご案内をするということと、また予約も始まりますので、バスの混雑防止のために、一時に大勢が押し寄せないよう対応すると聞いています。三ツ境駅におきましては、これも北口のターミナルを活用しますが、既存のバス停と合流するような形になります。これは正に瀬谷区にお住まいの方の生活に非常に大きな影響があるところですので、地域の方からも多くのご意見をいただいています。これにつきましては、事前のご案内に加え、グリーンエクスポが始まってからもバスを乗り間違えたり、どこに並んでいいのか分からないということがないように、人を立てて丁寧なご案内するということで対応すると聞いています。いずれも地区の連合の皆様と意見交換しながら、バス停での並び方やバスへの乗り方については検討を進めています。 【花上議員】今そのような方向で方針が出されているということで、問い合わせが私のところにも来ている。バスだけでなく駐車場も予約と聞いているが、今どのような状況か分かる範囲で教えてもらいたいがどうか。 【正田区政推進課長】おっしゃるとおり、バスも駐車場も予約制になっていまして、それぞれ時間別に予約をするような形となっています。入場チケットは９月 18 日から日時の予約ができますが、そのチケットの予約と併せて交通手段の予約もできるようになっています。 【花上議員】三ツ境の駅前、それから瀬谷の駅前が混乱しないように、是非しっかりと対応を進めていただくようにお願いしたい。 　それから防災対策についてお聞きしたい。今、地震のみならず風水害や台風など、いろいろな災害が日本列島のあちこちで起きて、毎日のように報道されているという実態がある。瀬谷区では今のところそのような被害は出ていないが、昔は境川の氾濫などもあって、集中豪雨、ゲリラ豪雨があった時

	に河川の氾濫などが起きないとも言えないと思う。今、川の話をしたが、地震災害もいつどこで起きるか分からないことから、こうした災害に対する備えもしっかりしていかなければいけないと思うが、直近の考え方や対策がどのようになっているのか教えてもらいたい。 【松石総務課長】地震につきましては、最近も７月末に熊本で大きな地震もあったことから、住民の皆様の地震に対する意識というのは非常に高まっているかと思っています。瀬谷区内で震度５強以上を観測した場合には、区内15箇所で地域防災拠点が開設されることになっています。それぞれの拠点運営委員会でも、秋頃や年明け頃に訓練を実施して、例えば今回はこの器具の使い方について訓練をしてみよう、段ボールベッドを試しに組んでみようなど、それぞれがメニューを工夫しながら、実際に災害が起きた場合に備えられるよう取り組んでいます。また、訓練には区役所の防災担当の職員を中心に関わって、区役所としても地域でいざという事態が発生した時に対応できるような体制づくりに取り組んでいます。 【花上議員】瀬谷にお住まいの方々と話していても、防災についての話題がかなり定着していると我々も受け止めているので敢えて伺うが、瀬谷区内には活断層はあるのか。 【富永副区長】瀬谷区に限らず、横浜市内に活断層があるのかということについては、阪神淡路大震災が起きた際に当時の高秀市長が技術者であったこともあって、平成７年の阪神淡路大震災以降、平成10年代にかけて横浜市内の活断層等の調査を実施しました。結論を申し上げますと、東京の方から伸びてきている立川断層などについて調査して、学識経験者等も交えて検討した結果、断層は存在するが地震を起こすような活動性は確認されていないという状況です。 【花上議員】活断層が確認されてないということであれば、大地震が起きるということはあり得ないと判断していいかどうか、そこが問題だと思うがどうか。 【富永副区長】確認されていないというだけで、今、中央防災会議でも首都直下地震や南海トラフ地震に対する被害予測もどんどん新しくなっています。横浜に影響がある地震というのは、今の横浜市の防災計画の中でも多数の想定がされていますので、活断層がないからといって安心ということではなく、引続き日頃の備えについて私たち行政側からの情報発信や啓発を着実に進めていかなければいけないと考えています。【花上議員】首都直下型地震

	が想定されているということはもうはっきりしてることなので、向こう 30 年以内には 70%以上の確率で地震が起きるとされているが、その際に瀬谷区は震度５強ぐらいであったか、今想定されている状況を教えてもらいたい。 【松石総務課長】今すぐにはお答えできないのですが、少なくとも市内で震度５強が発生した場合には地域防災拠点が開設されます。 【花上議員】このことを敢えて伺っているのは、いざ巨大地震が発生したり、あるいは風水害で大変な被害が出た時にしっかりと被災者を救援することができる備えがしっかり整っていなければいけないと思うからである。各地域の防災拠点があるが、そこに備えている防災用品や食料品、水等は普段から整えておかなければならないと思う。今の瀬谷区内の地域防災拠点では、十分そうした備えができているのか、状況が分かったら教えてもらいたい。 【松石総務課長】これまで各拠点、主に小中学校にある防災倉庫には様々な資機材、調理器具や今ご指摘のあった食料や水のほか、段ボールベッド等の備蓄品を配備してます。食料については、ローリングストックによって期限切れにならないように毎年新しいものを入れて、古いものを訓練として召し上がっていただくような形で対応していますが、日本全国で様々な災害を重なっていることから、他にもこのような物品があった方がいいのではないか、ということについても話し合われています。一昔前ですと、段ボールベッド等も配備していませんでしたが、配備を進める中で学校の防災倉庫も空間的に限界があることから、必要性は認識しているもののこれ以上入らないというようなケースもありますので、今後どうしていくのかということについては全市的な課題であるという状況です。 【花上議員】例えばこの間、外国では水だけで２週間耐えたという報道があったりすると、命を守っていくためにはいろいろ食べ物等も必要だが、やはり一番大事なのは水なんだと思う。以前は「はまっこどうし」という道志村の水のペットボトルをたくさん用意してあちこちに備蓄していたということがあるが、今はその水の確保についてはどのようになっているか、分かったら教えてもらいたい。 【松石総務課長】もちろん拠点に備える水もありますが、そもそも自助という観点から各家庭でも３日間生活に必要な水を確保していただくことについて広く啓発をしているところです。 【花上議員】行政が全て整えればいいということではなく、まずは各家庭で自分の命を守るための防災備蓄を用意しておくことが大切である。自助、共

	助、公助でそれぞれの役割をしっかり果たしていくことが必要だと思うので、そういった点について、瀬谷区が万全の体制づくりに努力している、一般家庭も含めてそういう用意ができているということについて胸を張って言えるように、防災対策を是非進めてもらいたいと思う。 【山岸区長】今おっしゃっていただいたことは本当に重要で、発生前の備えが肝心であるということでしたが、昨年制定した市の地震防災戦略でも、柱の１つ目は「市民や地域の“発災前からの備えを強化”」しようということです。今回の熊本の地震でも生活インフラが断絶してしまって、公的支援が届くまでの間、水や食料、トイレパックは一定程度確保しておかなければならないと課題認識されたことから、今お話をいただいた水、食料、それからトイレパックをしっかり備蓄しておくことが重要であると考えています。自宅においても地域防災拠点においても、やはり自助を意識することが大変大事だという中で、昨年度実施した区民意識調査では 20 代、30 代の若い方の備蓄割合が低かったという結果が出ました。こうしたことを踏まえて、昨年久保議員にもお越しいただきましたが、防災・救急フェアを今年は９月５日土曜日に開催します。このイベントでは防災や災害について子供が体験できるものを用意していますが、子供を連れてきてもらった若い親にも一緒に在宅避難の備えの啓発や行動変容を促すことを目的としています。こうした機会を通じて若い方に対して水や飲料、トイレパックの備蓄の意識を高めていきたいと取組を進めているところで、おっしゃっていただいたことにつきましては区としても意識をして非常に力を入れています。 【花上議員】続いて障害者について、このところ障害者の方々がかなり増えている状況が日本全体でも報道されているところである。瀬谷区内を歩いていると、支援学校のバスがかなり増えたと感じる。乗っている児童の数も本当に増えたと実感している。今瀬谷区内の障害者施設がどうなっているのか、また障害者に対応するために具体的にどのような取組が行われているのか、分かる範囲で教えてもらいたい。 【佐藤高齢・障害支援課長】障害には身体・知的・精神と３種類ありますが、障害者の数から言いますと、身体障害については横ばいから若干の減少ですが、知的障害と精神障害については大幅に増えている状況です。支援学校のバスのお話がありましたが、知的障害の方が増えていますので、そういったお子さんを対象にしている学校のバスの利用者数が増えているのではないかと思っています。特に施設等につきましては、施設の前に相談機関がありま

	して、瀬谷区には３障害合わせた相談機関として三ツ境の坂を少し下ったところに基幹相談支援センターがあります。また、せやまる・ふれあい館の中に精神障害に特化した生活支援センターがあり、ご相談等を承っています。もちろん区役所でもお受けしています。 施設等の利用に関しては、民間のサービスを利用することが多いのですが、私の感覚として事業者数はどんどん増えてきていると感じています。 【花上議員】瀬谷区内でも障害者の方の数がかなり増えているが、そうした状況に対する備えが万全なのか、いつも考えている。特に年々人数が増えている中で、子供たちの学校、支援学校が十分なのかと最近非常によく考えるのだが、今の施設で足りているのかどうか、この点についての認識はどうか。 【前川学校連携・こども担当課長】支援学校の実態は区の方で把握できてないところもありますが、身体ではない面で配慮が必要なお子さん自体も増えている中で、区内の学校では個別支援級での受け入れも行っているという状況です。そういった個別級の状況としては、子供の数は減っていますが、個別支援のお子さんの数は年々増えている状況にありまして、学校の中での受け入れを増やしながら対応している状況と聞いています。 【花上議員】なかなか実態が分からないところもあるようだが、障害者の方の数が増えているので、やはり受け入れる学校等の施設が本当に十分か間違いなくチェックしておかなければならないと思うので、我々も実態をさらに勉強していきたいと思っているが、区役所としても注意を払ってもらいたいと思う。 42 ページの地域福祉保健計画推進事業において、令和８年度の予算額が 292 万 5,000 円前年度に比べてかなりの金額が減っているようだが、この理由は何か。 【岩松福祉保健課長】令和７年度は、地域福祉保健計画を策定する年度でしたので、策定にかかる費用を計上していましたが、８年度からは策定した計画の推進を行いますので、策定にかかる委託費用等の分が減額になったところが一番大きな要因です。 【花上議員】最後に医療に関わることを聞きたいと思う。瀬谷区民が様々な病気にかかった際にはいろいろな医療機関にかかっているが、特に最近の傾向としてどのような病気が増えているのか、また医者や病院の数が十分足りているのか教えてもらいたい。 【木村福祉保健センター長】今どういった病気が増えているのかについての

	情報は把握しきれていないところもありますが、区の医療体制ということでは、旭区にはなりますが、西部病院が地域中核病院になっていて、急病、救急医療ですとか、高度な専門治療を西部病院で受けていただいているとともに、区内にある５病院につきましては、それぞれ病院の特徴がありまして、複数の診療科があって救急医療を担っているような病院や出産を専門としている病院、あるいは癌の緩和ケアを担う病院、精神科病院など、そういう意味では、瀬谷区では専門的な機能を発揮する病院がそれぞれの役割を果たしていただいていると思っています。また、医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方におかれましては、地域のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局として機能を発揮していただいて、地域医療の基盤を構築いただいていると思っています。区役所としても、そういった医療連携体制に関わっていきながら、区内の地域包括ケアの推進や検診予防等につきまして、区民の健康に貢献できるよう努めていきたいと思っています。 【花上議員】全国的に見ると、産科の病院がなくなってしまっていて、例えば新潟では地域の病院がなくなったので中心部の病院まで行かなければならなくなったということも聞いていて、お産でそんなに遠くまで行かなければならないという状況で大丈夫なのかと思う。瀬谷区の中で最近は随分歯医者が増えているという印象を受けているが、特にこういう病院や診療所が不足しているなど､瀬谷区の医療の実態がどうなっているのか教えてもらいたい。 【木村福祉保健センター長】横浜市では７つのエリアに分けて医療圏を設定していますので、近くの瀬谷区だけで医療機関が完結するものではないと認識しています。そういった中で、今どのような専門医療が不足していのかという点につきましては、現状において市内全体の中で医療需要は補完できていると思っています。 【花上議員】､瀬谷区では、医師会、歯科医師会、薬剤師会等の医療組織と上手く連携できていると理解してよいか。 【木村福祉保健センター長】そうした連携については、区役所としても日頃から積極的に取り組んでいます。実際に、日常区役所で行っている検診や健康づくりの取組にも様々な形でご支援いただいています。先ほどお話のありました認知症の医療連携や児童虐待の防止対策、災害医療対策につきましても、検討会のメンバーとして参画いただいて、ご協力いただいています。また第５期の地域福祉保健計画にも、昨年度の策定懇談会の委員として参画いただいていて、非常に多くの面で区役所の業務にご協力いただいています。

	引き続き三師会の先生方とは情報の共有や意見交換も行いながら、連携を強化していきたいと思っています。 【花上議員】行政の大きな役割はやはり市民の命と暮らしを守るということに尽きると思うが、区役所として 12 万 2,000 人の瀬谷区民の皆さんの健康を維持し、しっかりと病気から守っていく取組が必要である。今外国の方が大変増えてきていて、我々も地域を歩いているといろいろな国の方々に出会うので、確かに外国人が増えているなと思う。これから特にグリーンエクスポが始まれば、更に瀬谷区民だけでなく外国からもお客様が瀬谷を訪れることから、そういった方々が瀬谷に来て、グリーンエクスポに来て困ったことが起きないような工夫や取組について、今から万全を期さなくてはならないと思うが、こういった点についてどのような認識を持っているのか伺いたい。 【山岸区長】全ての区政において重要なことは、安心・安全なまちということだと思います。そういったことを意識することについては、常々区の中でも各課長と共有しています。防災や防犯、それから今お話のあった医療の問題も含めて、とにかく安心・安全なまちづくりは、区の根幹、区に限らず自治体にとって一番重要なことであると強く思っています。グリーンエクスポの際もそうですが、区民の安心・安全は一丁目一番地であると認識していますので、毎年の予算執行の中でしっかり取り組んでいきたいと思っています。 【川口議員】花上議員の質問と重複するところもあるが、開幕まで 200 日を切ってグリーンエクスポが迫ってきているという状況の中で、博覧会協会と横浜花博連絡協議会との連携も深まっていると思うが、今の状況を改めて教えてもらいたい。 【山岸区長】区の取組としては、引き続きの機運醸成と来場促進が大きな柱です。もう１つの柱は、地域の方々がご不安を抱えていることもあると思いますので、そういった声を局や博覧会協会に対してお伝えをする、更にそれが実現するように働きかけをしていきながら、進捗していないようであればプッシュをしていく、またそれが実行されたら、ご不安な点はこういう状況になりましたという広報も重要だと思っています。その２つが車の両輪になってくると思ってますので、そうした取り組みをしっかりやっていきます。 　また、機運醸成や来場促進に関しては、有名な「万博おばあちゃん」に「せや・花咲く未来 応援大使」として就任していただき、９月 12 日の半年前のイベントの際には私とトークイベント等も行います。また 12 月には 100 日前のイベントも実施する予定です。やはり若い人にも来て欲しいので、地元の

	ウェブメディアとして力のある「瀬谷なび」とも連携してＰＲを行ってまいります。私もお招きいただいた催し等の場にはできる限り参加して、必ず「グリーンエクスポまで残り何日です」というＰＲをし、機運醸成や来場促進を推し進めています。今後は開幕が近づけば近づくほど、地元の方々のご心配ごとが出てくると思いますので、しっかりと博覧会協会等と連携し、その結果を地域にお伝えしていくということをしっかりやってまいります。 【川口議員】200 日を切り、区民の皆様からのご要望等もより具体的になってきていると思っている。その要望を局に伝えた方がスピード感を持って実現できるのか、博覧会協会に持っていく方がいいのか、200 日を切ってくる中で、博覧会協会も局も忙しくなっている中で判断が非常に難しくなってきていると思うが、そうした中で、例えば情報共有をこれからも行って、区がより目立つシーンで、今まで瀬谷の歴史を培ってきてくださった方々が望むのであれば、その気持ちに寄り添える場所として、グリーンエクスポの中で出ていただけるような場も考えていかなければならないと思う。私だけではなかなか手が届かなかったり、声が届かなかったりする場合もあるので、区役所の皆さんの力添えもいただければと思っているのでよろしくお願いをしたい。 　熱中症に関して、今年はどのような状況であったのか伺いたい。去年と比べて搬送数はどうであったか。 【駒崎瀬谷消防署副署長】今年は梅雨に入る前も暑い日があったので、早い時期に熱中症の搬送数が増えていました。ただ、例年に比べて今年が非常に多かったということではなく、例年通りという状況です。 【川口議員】グリーンエクスポの会期中はどうように対応するのか、具体的な方針は決まっているのか。 【駒崎瀬谷消防署副署長】グリーンエクスポの会場の中に救急の救命出張所を設けて、特別に救急隊の救急車が待機して対応します。それで足りないような状況であれば、消防署からも救急車が出動します。 【川口議員】区民の皆様の緊急事態とグリーンエクスポの会場内での緊急事態は、区分けされていると判断してよいか。 【駒崎瀬谷消防署副署長】その通りです。 【川口議員】今回の予算を見ると、機運醸成に多くのお金が使われていると思っている。まだ早いのかも知れないが、グリーンエクスポ後に残すものとして今から想定しているものがあれば教えてもらいたい。

	【山岸区長】やはりグリーンエクスポのレガシーは大変重要であると思っています。まずはグリーンエクスポを成功させることが大前提ですが、そのレガシーには大きく２つあると思っています。１つは物として残るレガシー、２つ目は意識という面で環境に対する行動変容を促すレガシーです。グリーンエクスポの会場の後には、環境や防災をテーマとした公園が整備されますので、それが物として残る１つの大きなレガシーですし、会場に植栽された花や緑、また今土木事務所を中心に取り組んでいる、みんなで花いっぱい瀬谷区事業で植えた花も物として残っていくレガシーであると思っています。また、「環境と共に生きる」、「環境に優しい未来の社会を体験する」グリーンエクスポですから、終わった後に子供たちからお年寄りまでが、日常の中で環境や脱炭素を意識する行動につながることをしていく必要があると思っています。現在、令和９年度予算編成中ですので、まだ具体的にお伝えすることはできませんが、レガシーとして特に意識や行動変容につながるような取組を検討してるところです。 【川口議員】今の説明の中でより理解することができた。機運醸成として予算計上されていたものが、レガシーという形になって、次の瀬谷区の予算の中で名前は変われども続くものもあることについて踏まえていることを感謝したい。 　市議会の解散がもうなくなった状態なので、統一地方選挙が来年の３月後半か４月に行われることがほぼ確定である。グリーンエクスポ会期中での選挙ということについて、まだ詰めきれていないところはあると思うが、現状で瀬谷駅前や区役所で行っている期日前投票について、特にグリーンエクスポが始まったばかりの時期であるので、日常生活にどのような影響があるのかなかなか予想がつかないところもあるかと考えている。前回も質問したと思うが、現状でグリーンエクスポ期間中の地方選挙の対応については、区民の皆さんの安心と安全にもつながってくる話だと思うので、どのような対策をとるべきか検討が行われているのであれば状況を確認したい。 【松石総務課長】来年の春に行われる統一地方選挙に向けてはまだ具体的な話には及んでいませんが、区民の皆様の投票機会をしっかり確保するために投票環境の向上に努めていくという観点から、先だって記者発表も行いましたが、来年の統一地方選挙において 18 区の中で栄区・瀬谷区の２区で共通投票所を試行実施するための準備を進めている状況です。 【川口議員】これからよりアンテナを張ってもらいたい。もちろん我々も言

	及しないといけない立場であるが、多くの観光客が我先にと会場に向かう中、投票所に行く途中でご高齢の方が怪我をされる可能性もゼロではないと思っている。非常に複雑な選挙と思っているので、様々な角度からシミュレーションしてもらいたい。 　また、前回も質問したが、来年も当然各地域で行事が行われると思う。グリーンエクスポが開催されるからといって地域行事がなくなるということではないと思っている。ただ地域行事の準備や開催にあたって、特に会場の近くの住民の皆様は、グリーンエクスポの余波によって、もしかしたら煩わしい思いをする可能性もあると思っている。 　今の段階から機運醸成を行うことは非常に大事ではあるが、その点にも意識を持ち、アンテナを張って、ある程度のシミュレーションを少しずつやっていかなければならないと思う。特に防災訓練等は来年の９月にやっていただかなければならないので、そのシミュレーションの結果を活用できないか、もう議論のテーブルの上に乗せていかないといけない状況になっていると思う。もちろん皆さんそうではないと思うが、機運醸成だけに意識を向けるのではなく、地域の行事や選挙を円滑に行うために、どのように手厚く準備を整えていかなければならないのかは、瀬谷区と旭区が考えなければならないことだと思っているので、そのアンテナを高く張り、感度をより高めてもたいたいと思っている。 【山岸区長】当然ですが、選挙権は有権者の皆さんに平等に与えられている権利で、そのようなことで阻害されるようなことがあってはなりませんので、我々も感度を高くし、しっかり考えていかなければいけないことであると十分認識をしています。行事についても、地域防災訓練も９月のグリーンエクスポ会期末の時期に実施することが多いと思いますが、いずれせよ会期期間中に多くの地域行事がありますので、今のところお声はいただいておりませんが、また来年の計画を立てる時期にはそうしたご不安等も出てくると思いますので、そこを意識しながら、各地区の地区担当の課長を通じて、地域の皆さんとしっかり寄り添う必要があると思っています。 【川口議員】地区担当からもどういう考えを持っているのか促していただいて、特に地域の住民の皆様もグリーンエクスポを楽しみにしている方は大変多くいると思うが、機運醸成や楽しいという気持ちばかりに気が向いている方もいらっしゃるので、今後来年どうしようか、というような疑問、問いかけを、地区担当からしていただく必要性があると思っているので、是非とも

	そうしていただきたい。 　災害時のペット対策について質問だが、災害時に先ほどの話にあった我々人間の水や食べ物の備蓄については十二分に勉強させていただいているところであるが、家族の一員であるペットのための備蓄については市としてどのように指導しているのか。 【内木生活衛生課長】おっしゃるようにペット用のフード、水も備蓄しておいていただきたいということは、長年、市でも啓発を行っています。最近改定されたガイドラインにも記載をしていますが、各家庭において普段お使いのものを多めに買っておいて、消費したら補充というローリングストックをしていただくことをお勧めしていて、常に一定量が家庭に備蓄されているような状態を作ってくださいということをお伝えしています。 【川口議員】各家庭に任せられる部分が非常に大きいかと思うが、おっしゃる通りで、猫や犬、他の小動物が好きな食べ物、嫌いな食べ物であったり、同じペットフードの中でも様々好みがあると思っているので、ペットの飼い主さんにお任せするのだという意思をもっと伝えていかないといけないと思っている。また、ドライフードやウェットフード、ペットフードも様々種類があると思うし、ウェットフードは食べ終わった後の袋を洗わなければいけないなどの手間があるので、ドライフードの方を推奨すべきなのか、他にも細かく言えばまだまだあると思っているので、また話をさせていただく機会があればありがたいと思っている。 　先ほど障害の話があったが、この「障害」という漢字の書き振りに関して話をさせてもらいたい。今、自民党において、来年の選挙に向けてマニフェストを作っている。前回もそうであったが、「障害」の「害」という字の書き方、書き振りに関して意見を伺いたい。漢字で書くのか、平仮名で書くのか、その意識を持つことはもう大事な時代になってきているような気がしている。自治体によっては、やはり漢字で書くとインパクトが強いので、平仮名を使っていることもだんだん増えてきていると思っている中で、横浜市では今「障害」の「害」の字は漢字を使っていると認識している。どちらがいいのかは、まだまだ分からないところもあると思うが、現時点での考えがあるのか。 【佐藤高齢・障害支援課長】障害者の表記の仕方につきましては長年議論されていますが、国の法律では現在も漢字の「障害」を表記として用いています。第２期の横浜市障害者プランの策定時の議論では、表記を平仮名に変更

	するということは課題がもう解消したかのような印象を与えることへの懸念が示されたと聞いています。ご指摘のとおり、漢字の「害」のインパクトとして少し否定的な響きのようなものもあることから、平仮名の表記が望ましいという意見もまた伺っています。現在、健康福祉局、こども青少年局、教育委員会事務局が連携をして第５期の横浜市障害者プランの策定を進めているところですが、いただいたご意見等も含めて、障害のある方々や関係団体の皆様の声を伺いながら、本市においても適切に対応すべきものであると考えています。 【久保議員】まず、グリーンエクスポの開催までいよいよ 200 日を切ったということで、先ほどいろいろな話があったが、やはり地域の皆様からは安心・安全ということと渋滞についての声を多くいただいている。そうした中で、周辺地域の様々な事業者へ呼びかけて、グリーンエクスポの交通円滑化検討会議において９月７日からＴＤＭトライアルをやることになったが、ＴＤＭ期間中の瀬谷区の取組と併せてグリーンエクスポに向けた意気込みを伺いたい。 【山岸区長】区民の皆様にも安心・安全に楽しんでいただきながら、グリーンエクスポを絶対に成功させて、多くの方が瀬谷にお見えになるので瀬谷の魅力を十分に知っていただきたいと思っています。区民の皆様にも瀬谷への愛着をより深めていただきたいですし、瀬谷に訪れた方にも瀬谷の魅力を感じ取っていただいて、もっともっと多くの方に住んでいただいて、人口も増やしていくことにもしっかり取り組んでいかなければならないと考えています。楽しみつつも、ベースには安心・安全を見据えて、将来の瀬谷につなげてまいりたいと思います。 　ＴＤＭは瀬谷区独自ではなく、ご存知のとおり横浜市全体としていろいろ取り組むもので、例えば横浜駅や新横浜駅を一定の時間帯利用するのを抑制したり、これは瀬谷に特に関係することですが、会場周辺道路で朝、夕の時間に車両利用の分散化・平準化を図る取組については、瀬谷区役所においてもその時間は対象範囲内で公用車を使った配送を原則行わないこととしています。ＴＤＭについては、市全体でしっかり取り組んでそこで得られた結果を実際の交通政策につなげるものですので、区としても大きく関わっていきたいと思っています。 【久保議員】先日の記者発表資料では、長津田から会場、八王子街道を少し越えたあたりの町田付近までトライアルエリアとすることが発表されている

	が、地域からのいろいろなご意見もあると思うので、区役所として是非結果を見てもらいたい。 瀬谷フェスティバルについては、10 月 18 日に開催予定であったものの、市長選挙と日程が重なったため、今後地域にも意見を伺いながら検討するということであったが、区としての考えを伺いたい。 【山岸区長】非常に残念で、区としても苦渋の決断でしたが、18 日の開催を取り止めることについては、連合町内会長を始めとした実行委員会の皆様と書面会議等を踏まえながら決定いたしました。選挙に従事していただく地域の方も大変多く、また、選挙にも瀬谷フェスティバルにも、区の職員も多く関わりますので、どちらにおいても何かがあってはならない、特に選挙については絶対に何かがあってはいけませんので、残念なところではありますが、18 日は一旦取り止めたというところです。完全に止めるのか、延期して別の日程で開催するのかということについては、今後実行委員会の中で決めていただくことになります。ちなみにグリーンエクスポ開催地元区である旭区と緑区も同じ日に区民まつりを開催する予定でしたが、確認したところ、いずれの区も 18 日は同様に取り止めとのことでした。 【久保議員】非常に悩ましいところではあるが、実際地域で様々なことに従事される区民の方は兼務される方が多いので、皆さんが安心して従事できるような配慮をお願いしたい。 瀬谷駅は４つのバス路線の発着駅の１つの駅として、グリーンエクスポの表玄関になるが、先日、北口のスーパー側にあるエレベーターの場所が分かりづらい、という声をいただいた。それで、実際階段を使われたということであったが、かねてから分かりづらいという声はあったが、また最近そういうお話をいただいて、ある方にはエレベーターの場所をご案内したところ、それは気づきませんでしたということもあった。駅の改札を出てから誘導サインがなかったと思う。もう１基南口にもエレベーターがあるが、障害者への配慮やバリアフリーの観点、またグリーンエクスポでしっかり皆さんもお迎えしなくてはいけないことから誘導サインが必要である思うが、調査の上対応することは可能か。 【青木瀬谷土木事務所副所長】そうした要望があったことは把握していませんでしたが、まずは現場を確認して検討が必要な状況であれば、局や博覧会協会と一緒に対応させていただきたいと思います。 【久保議員】29 ページの災害等対策事業の区本部運営関係事業で新規事業と

	あるが、今後いざという時に区としても災害への対応力を高めるところで、具体的にどのような成果があったのか。資機材の整備などを行ったのか。 【松石総務課長】災害時には区役所だけではなく、関係機関と連携をしながら取り組むことが必要ですので、新たに上瀬谷整備事務所を含めた５機関の連絡協議会を立ち上げて意思疎通を図っています。また、境川を挟んで隣接する大和市との情報交換も重要ですので、出水期の前の５月頃に情報連絡会を開催するなど、実際に災害が発生した時に速やかに円滑に動けるように取組を進めています。 【久保議員】今後も引き続き更にしっかり対策を講じてもらいたい。浸水対策については、昨今、大型地震に加えて非常に注目を集めてるところである。瀬谷区では今工事をしている三ツ境地区の下水道の完成が来年の４月までずれるものの、区内の下水道工事は着実に行われていると聞いているが、今年の６月にハザードマップの見直しが行われて、今年度全戸配布するということであったかと思う。瀬谷区内における浸水対策として、ハザードマップ等もただ配るだけでは、なかなか皆さんの取組も進まないと考える。下水道河川局が所管と思うが、浸水対策という視点からの考え方、また取組があれば教えてもらいたい。 【松石総務課長】瀬谷区の災害リスクとしては、境川を始めとする区内河川の氾濫による浸水被害や局地的な大雨による内水氾濫、急傾斜地における土砂災害が災害リスクとして想定されている状況です。今ご指摘がありました浸水ハザードマップや土砂災害ハザードマップを平時から周知し、啓発に取り組んでいます。浸水ハザードマップにつきましては、まだ具体的な日付までは聞いていませんが、年度内に全戸配布して、区民の皆様に情報をお届けします。一方で、届いてもそれをご覧にならない方もいらっしゃるので、配るだけではなく、今ちょうどいろいろな災害が報道されていて、区民の関心も高まっているところがありますので、そういった方にも是非もう一歩深い話を聞いてみたいと思っていただけるよう、他に秋にも防災講演会を開催したいと思っています。いざ災害が発生する可能性のある台風接近や大雨の際には、区でも災害本部を立ち上げて、土木事務所や警察署と連携しながら万が一に備えて対応を図っているという状況です。 【久保議員】浸水ハザードマップについては情報面もしっかり強化されたが、やはり改定が必要であるが故に作り直したということがある。そもそも洪水と浸水、津波でそれぞれバラバラに作成しているが、見る方にとってそこが

	危険かどうか分かればいいので、そもそもバラバラではダメなのではないか、我が党から提案したところから始まったことである。しっかり活用できるよう是非お願いしたい。 　５ページのまちの安全支援事業のスクールゾーン対策助成事業について、実際どのような取組をしたのか確認したいと思う。市ではビッグデータを活用したスクールゾーン対策を行っているが、これと実際連携して行っているのか、それ以外のこともしっかり行っているのか、確認させてもらいたい。 【政木地域振興課長】各小学校のスクールゾーン対策協議会からの要望を元に、限られた予算の範囲内でスクールゾーンの路面表示を施工しているものです。 【久保議員】全く関連性がないのか。重複する部分もないのか。 【政木地域振興課長】ビッグデータの内容を把握できていないところがありますが、協議会が要望している項目と関連している可能性はゼロではないと思っています。 【久保議員】今年度は、瀬谷小学校、大門小学校、上瀬谷小学校、相沢小学校、二ツ橋小学校で実施している。そういう意味で、しっかりそのビッグデータを使った安全対策と、もちろんそれ以外のところも取り組んでいく必要があると思う。やはり２つの取組があるので、しっかり照らし合わせて進める必要がある。事故が起きる前に危険箇所を特定して、未然に対策を講じるというのがビッグデータの活用である。ビッグデータは有益で、貴重なデータだと思うので、しっかりと活用していくことが必要ではないか。 【青木瀬谷土木事務所副所長】スクールゾーンの路面表示を我々の工事の中で対応しているものですが、事故データ等を活用しながら、速度抑制のドットや今年度は上瀬谷の北側の生活道路も含めて路面表示を集中的に実施するための予算も昨年度より多くなっていますので、そういったデータも活用しながら、必要な路面表示を中心に対応しているという状況です。 【久保議員】先ほど挙げた学校の方から、グリーンエクスポがあるので交通安全についてはしっかりやってもらいたい、という声をいただいていて、道路・交通政策局には、先ほどの５つの小学校エリアで今年度取組を進めていくことを確認している。 　次に、認知症について、先ほど他の議員からもあったが、高齢化社会になってやはり認知症対策は重要であると思う。早期発見、早期治療が認知症の取組として一番大事だと、かねてから言われているが、最近、私が肌感覚で

	感じていることは、認知症の症状が悪くなった方についてのご相談が多い。例えば、徘徊をして行方が分からなくなってしまったり、近隣とトラブルを起こしてしまったりということが結構あって、高齢・障害支援課長にもいろいろ相談をさせてもらっているが、なかなか解決策がない。民生委員さんも成り手不足で、なおかつ高齢者の方も多く、全て完璧に見きれないというような受け皿がない状況で、自治会町内会に相談したらよいのか、民生委員さんなのか、警察なのかというところで、戻ってくることがある。その中で、この認知症対策、いわゆる見守りということを含めて、やはりしっかりやっていかなければならないと思う。いつも申し上げているが、瀬谷区には公営住宅が多く、２人に１人が 65 歳以上の高齢者という現状がある中で、最近実際、孤独死もあると聞いている。認知症の方のトラブルもある中で、公営住宅において認知症対策、見守り対策をしっかりとやっていく必要があると思う。すぐに解決はできないかも知れないが、区の方針、方向性を確認させてもらいたい。 【佐藤高齢・障害支援課長】認知症によって生じる行動には、ご本人なりの理由がある場合もあり、心配事や混乱した気持ちが行動として現れていることも少なくありません。大切なことは、ご本人の気持ちにしっかり寄り添うこと、あとは変化に早い段階で気づくこと、まずはお話を伺い、安心していただくことで落ち着きを取り戻されることもあります。そのため区では、認知症サポーター養成講座などを通じて、認知症に関する正しい知識や対応方法の理解を地域全体に広げています。一方で、近年トラブルを起こしたり、道に迷ってしまったり、また金銭管理の問題など、ご家族や地域の皆様だけで対応が難しい場合もあります。そういった場合には区や地域ケアプラザにご相談いただきたいと思います。介護保険サービスの導入や医療機関の受診など、状況に応じた支援を進めていきます。ご本人やご家族の状況によっては、すぐには支援を受け入れられないような場合もありますが、信頼関係を築きながら支援につなげてまいりたいと思っています。 【久保議員】いわゆる認知症基本法においても、認知症の方の基本的人権をしっかり擁護するとして、自らの意思に基づいて生きていくことをサポートしていくことが理念として掲げられている中で、認知症サポーターの養成や地域ケアプラザを通じた支え合いに加え、もう一歩踏み込んで取り組んでいく必要があるように思う。行政としてなかなか全てできる訳ではなく、しっかり頑張っていることは認識しているが、行政とこの最前線の中での狭間で

	様々なことが生じていることは大変な課題であることは申し上げておきたい。 　いわゆる終活支援の中でヨコハマあんしん登録というのが始まって、単身の高齢者などを含めて 65 歳以上の高齢者の方は無料で登録できるようになっているが、瀬谷区での登録数の状況はどうか。 【佐藤高齢・障害支援課長】令和８年８月末の段階で、瀬谷区の登録は 55 人という状況です。 【久保議員】55 人ということであったが、目標はあるのか。55 人という人数は多いのか、少ないのか。まだまだもっと増えてもいいと思うがどうか。 【佐藤高齢・障害支援課長】目標人数は設定していませんが、市の全体の状況から見ると決して多い方ではありません。65 歳以上の方を対象として、外出時での救急搬送や徘徊時に速やかにご家族に連絡できるよう、瀬谷区独自で展開している高齢者見守りキーホルダーの八福札をというケアプラザの連絡先等が載っているキーホルダーをお渡ししておりますが、その数が令和８年３月末時点において 2,404 件で、こちらのキーホルダーが先に普及している影響もあるかと思っておりますが、両輪で進めてまいりたいと考えています。 【久保議員】このヨコハマあんしん登録という制度自体が、極端なこと言えば死後に無縁仏にならないようにする目的もあって、生前に死後について自らの意思をしっかりと表示しておくというところが大きい。高齢者の方々にとって、スマホとかパソコンでの電子申請がなかなかやりづらいので、社会福祉協議会で入力支援もしているが、普及させるようまだまだ頑張っていく必要があると思うが、どう認識しているか。 【佐藤高齢・障害支援課長】地域ケアプラザや市事業のなかで合わせて説明させていただいたり、高齢者の方には入力が難しいというお話も聞いていますので、その支援ができる体制など検討してまいりたいと思います。
備　　考	